

令和6年度福井市下水道事業会計決算の概要

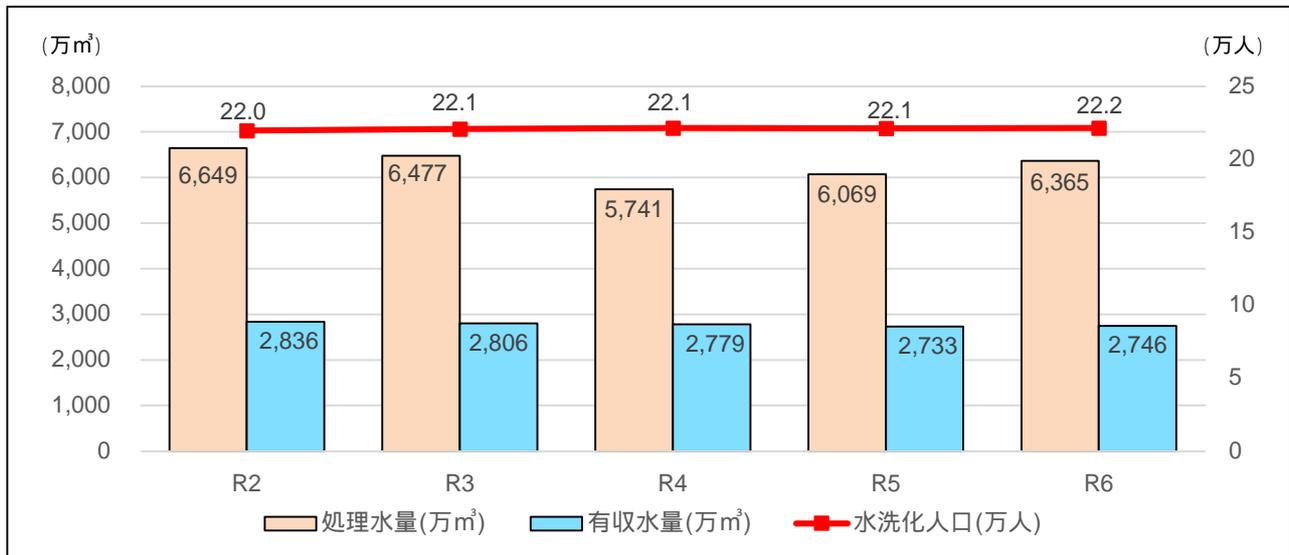
1 業務状況

当年度は、新たに41haの地域に汚水管渠を整備しました。これにより、未普及地区解消に向けた管渠整備は完了し、公共下水道は概成しました。

そのほか、老朽化した下水道施設の改築、施設の耐震化、雨水対策事業等を行いました。また、老朽化対策と排水能力の増強を目的とした、大規模な改築工事である足羽ポンプ場の更新事業に着手しました。

		令和6年度	令和5年度	対前年比	
				増減	増減率
下水道区域内人口	(A) 人	231,717	233,086	1,369	0.6
供用人口	(B) 人	230,542	231,063	521	0.2
普及率	(B/A) %	99.5	99.1	0.4	-
水洗化人口	(C) 人	221,501	221,295	206	0.1
水洗化率	(C/B) %	96.1	95.8	0.3	-
計画面積	(D) ha	6,116	6,109	7	0.1
整備面積	(E) ha	5,497	5,456	41	0.8
整備率	(E/D) %	89.9	89.3	0.6	-
総処理水量	千m ³	63,646	60,691	2,955	4.9
有収水量	千m ³	27,455	27,328	127	0.5

[水洗化人口及び処理水量・有収水量の推移]



○これまで公共下水道の普及拡大を進めてきたことにより、市全体の人口が減少している中、水洗化人口（公共下水道に接続している人口）は同程度で推移しています。

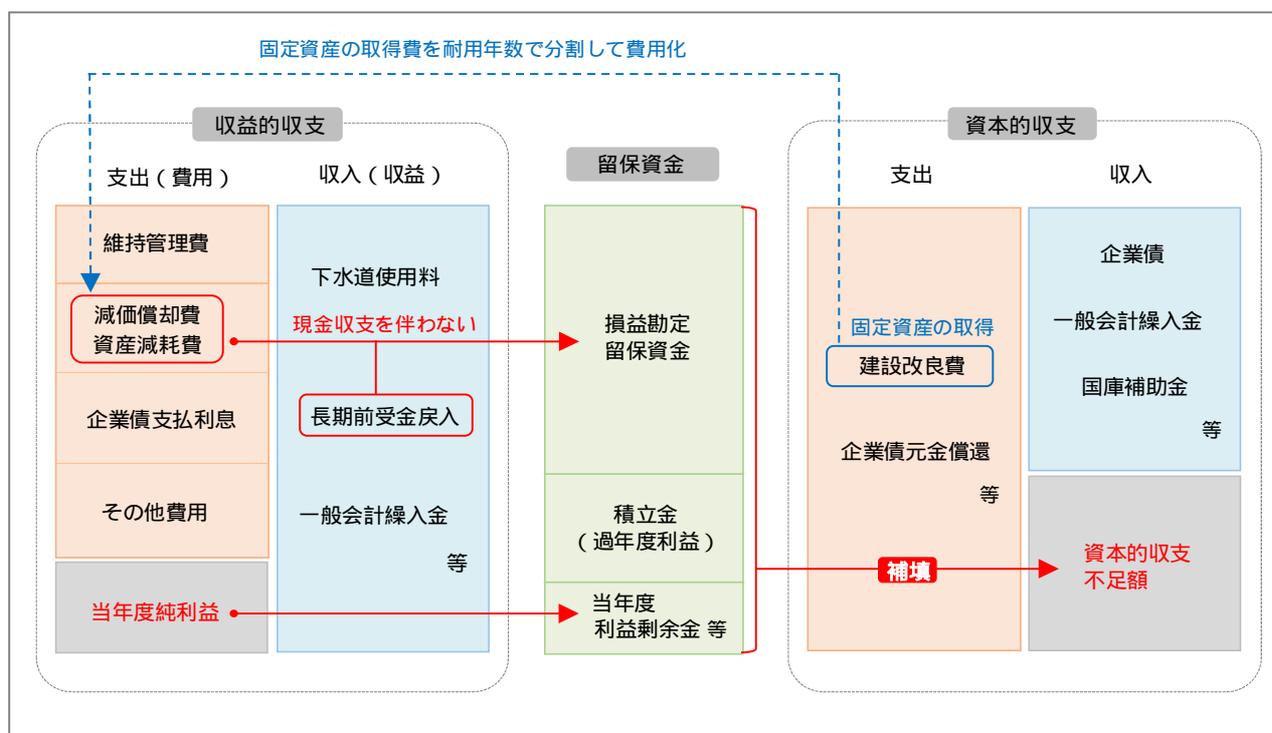
○本市では、市中心部は合流式下水道（汚水と雨水を同一の管渠系統で排除する方式の下水道）であることから、処理水量には雨水の流入分も含まれており、降水量の多寡によって処理水量は大きく増減します。

2 収支の状況

【公営企業会計の収支】

- 公営企業会計の収入と支出は、「収益的収支」と「資本的収支」の2つに区分されます。
- 収益的収支は、下水道使用料収入や維持管理費など、経営活動のなかで発生する1事業年度における収入（収益）と支出（費用）です。決算書の損益計算書にあたる部分で、収入と支出の差額が当年度の経営成績（純利益又は損失）を表します。
- 資本的収支は、1事業年度を超えて長期間にわたり使用される施設の新設・改築等の建設改良費や、その財源となる補助金収入、企業債の発行・償還など、主に建設投資に係る収入と支出です。
- 1事業年度を超えて使用される施設等の整備費用（固定資産の取得費）は、資本的支出に計上されるとともに、収益的支出において、当該施設等の耐用年数に応じて各年度に分割して費用計上（減価償却費）されます。
- 一般的に、収益的収支で得た資金で、資本的収支の赤字（資本的収支不足額）を補填する必要があります。

[収益的収支と資本的収支の関係イメージ]



【減価償却費】固定資産の取得費を、耐用年数に応じて各年度に分割して計上する費用（実際の現金支出はない）

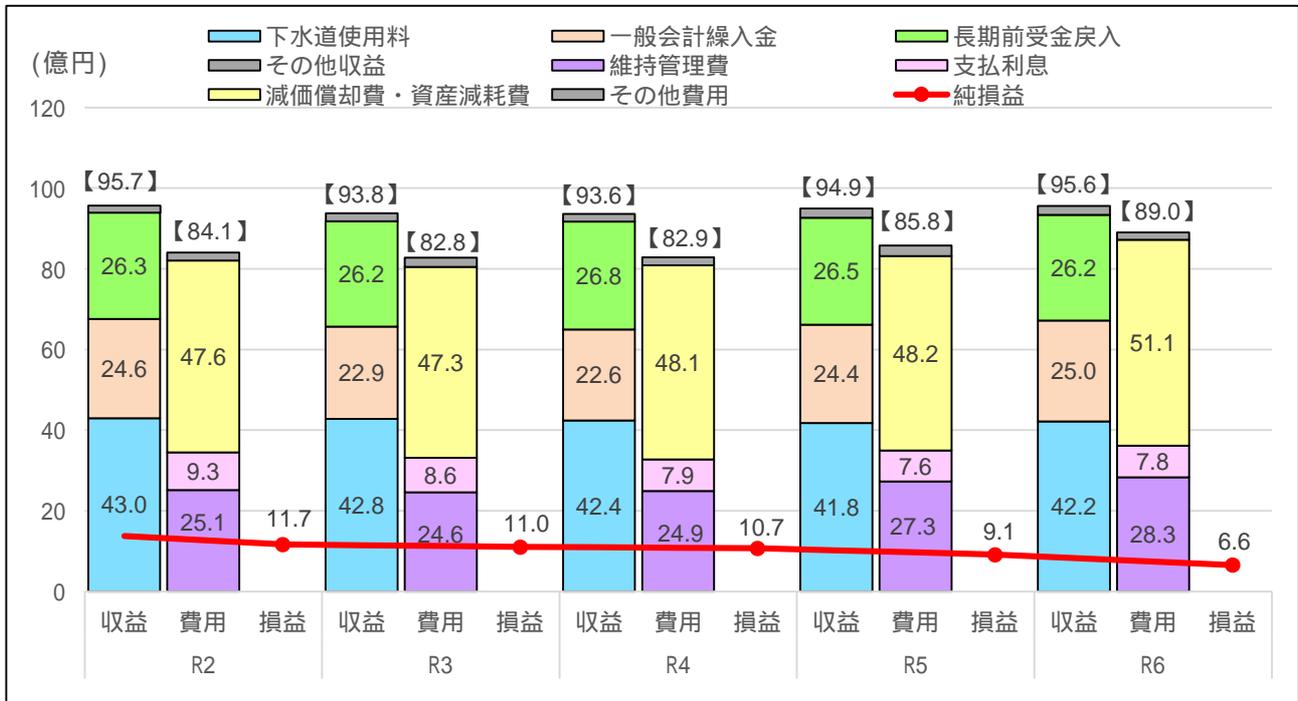
【長期前受金戻入】固定資産取得の財源として得た補助金等を、減価償却に対応して各年度に分割して計上する収益（実際の現金収入はない）

【損益勘定留保資金】収益的収支における現金支出を伴わない費用から、現金収入を伴わない収益を差し引いた額。この分は実際の現金支出はなく、企業内に留保されている。

【収益的収支の状況】

収益的収入及び支出の直近5年間の推移は以下のとおりです。

【収益的収入及び支出の推移】（税抜）



収入（収益）

- 主なものは、下水道使用料、一般会計からの繰入金、長期前受金戻入です。
- 収益の根幹である下水道使用料は、人口減少や節水機器の普及等により、減少傾向にあります。

支出（費用）

- 主なものは、下水道施設の維持管理費、企業債の支払利息、減価償却費・資産減耗費です。
- 光熱費や資材等の高騰、労務費の上昇などにより、維持管理費が近年増加しています。また、大規模施設の改築（加茂河原ポンプ場）により、減価償却費が前年度に比べ大きく増加しました。

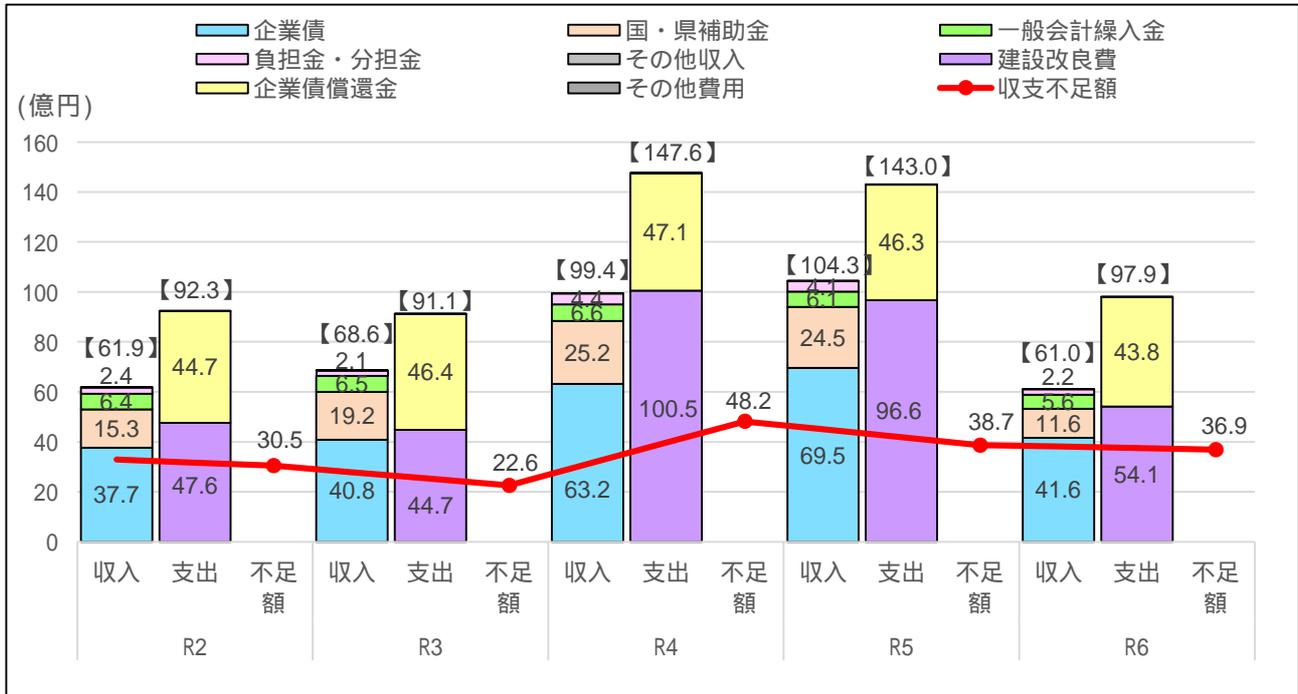
収支差額（損益）

- 収益が横ばいのなか、費用が増加していることから、純利益は減少が続いています。
- 今後も、人口減少等に伴い下水道使用料収入は減少が見込まれます。一方、費用は増加が続くと考えられることから、純利益は今後更に減少すると見込まれます。

【資本的収支の状況】

資本的収入及び支出の直近5年間の推移は以下のとおりです。

[資本的収入及び支出の推移] (税込)



収入

- 主なものは、建設改良費（下水道施設の新設・改築等に係る費用）の財源である企業債及び国庫補助金です。
- 建設改良費の増減に対応して収入も増減します。

支出

- 主なものは、建設改良費及び企業債償還金です。
- 総額約100億円の加茂河原ポンプ場更新工事（R1～R5）が完了したことで、令和6年度の建設改良費は前年度と比べると大きく減少しました。

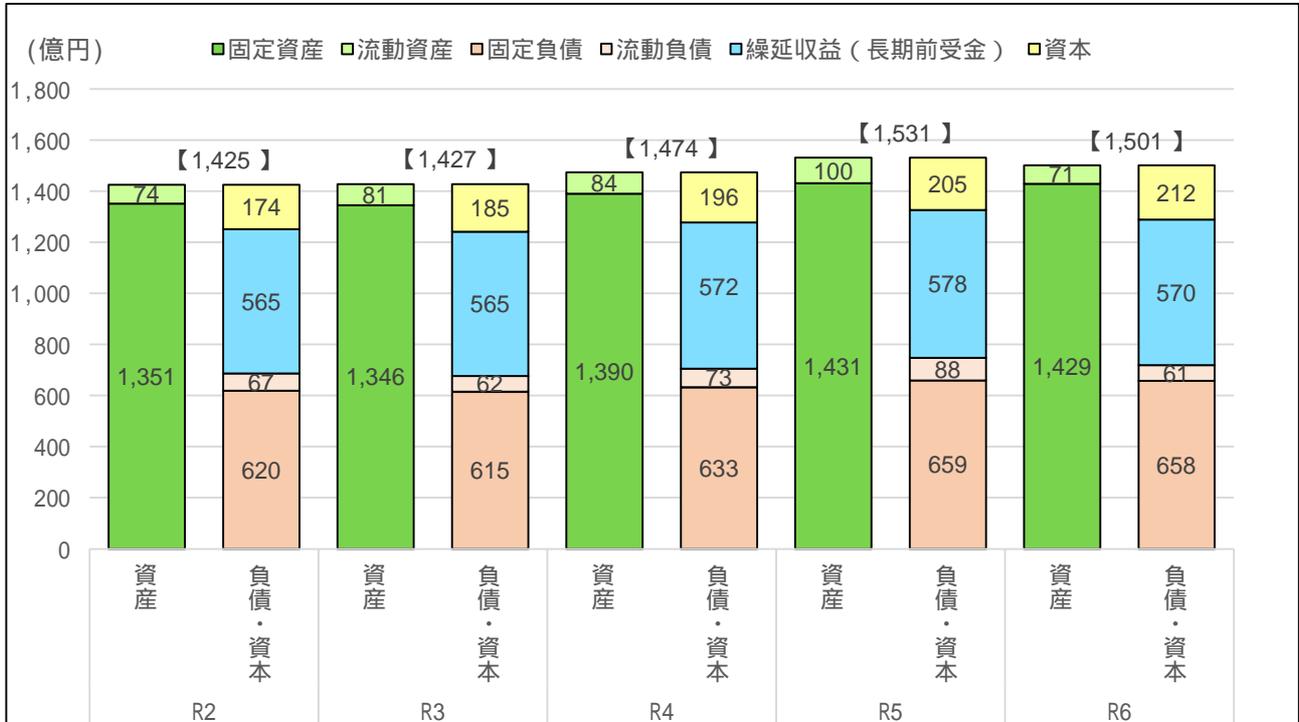
収支不足額

- 建設改良費が増えると、収支不足額も多くなります。
- 今後、老朽化した施設の更新を進める必要があり、建設改良費の増加に伴って、収支不足額が増えていく見込みです。

3 財政状況

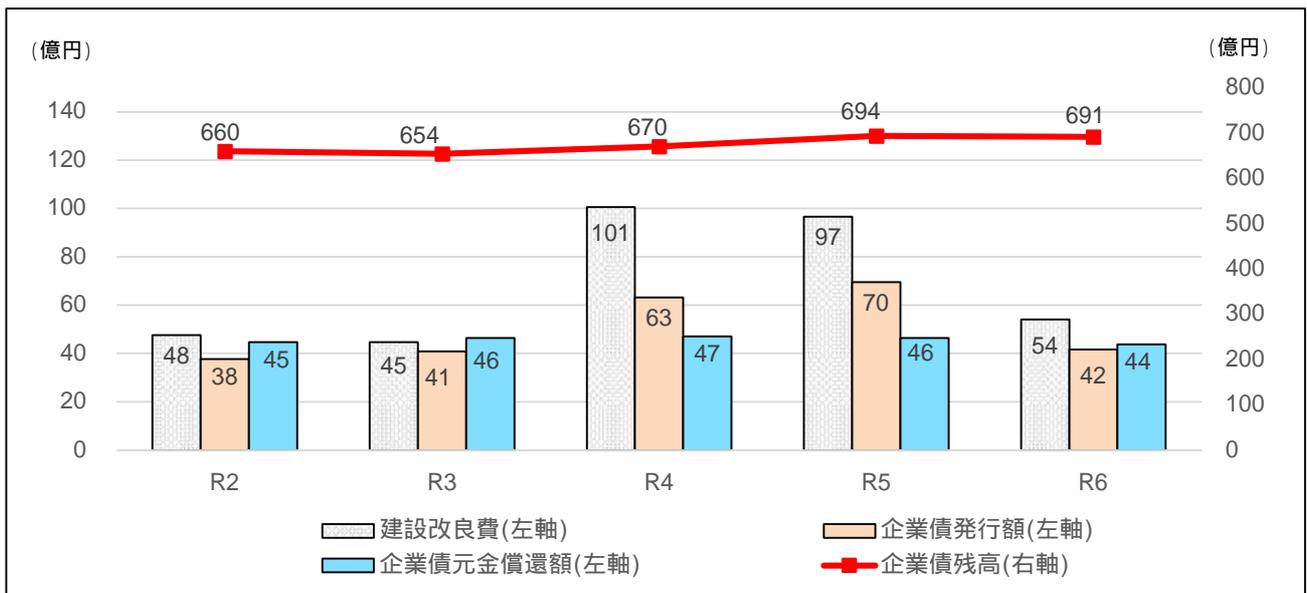
資産や負債、資本の直近5年間の推移は以下のとおりです。

[資産、負債等の推移]



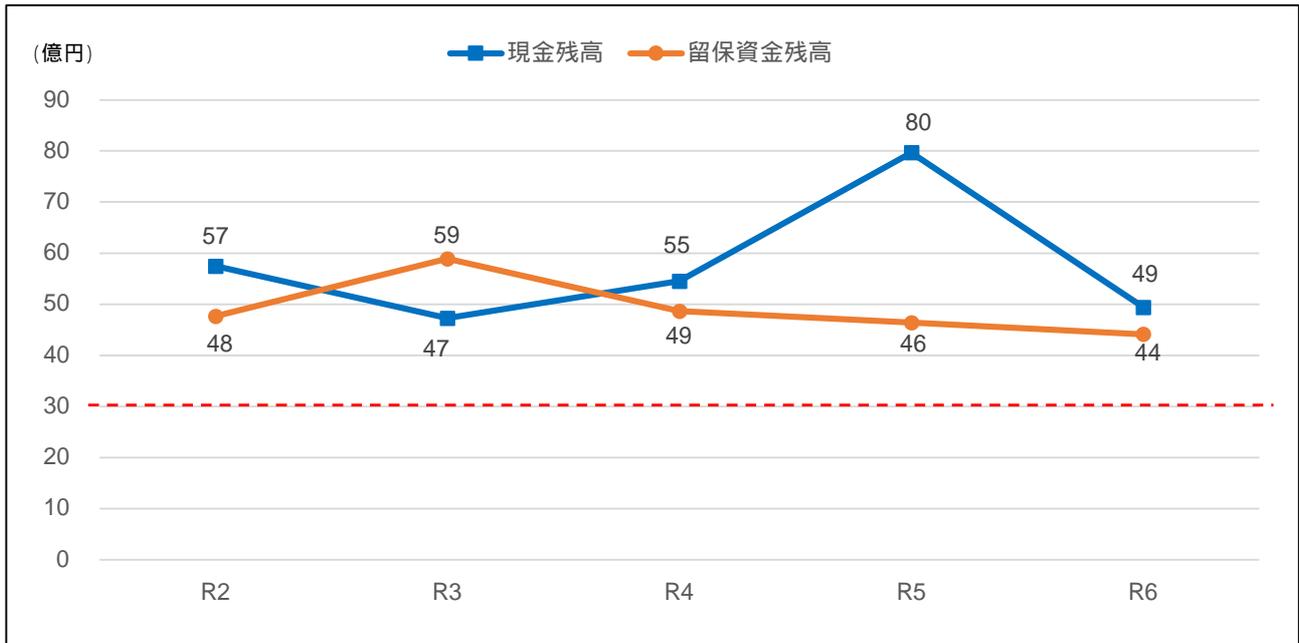
※記載金額は、表示金額未満で四捨五入しているため、合計や差引の金額は一致しない場合があります。

[企業債残高の推移]



○建設改良費の増加に伴い、その財源として企業債の発行額も増加しており、企業債残高は増加傾向にあります。

[資金残高の推移]



【留保資金】本市では、流動資産（現金預金や未収金等）から、借入金以外の負債（未払金や預り金、引当金等）を除いた、今後の事業運営に使用可能な実質的な資金の残高を、留保資金残高として記載しています。

- 留保資金が不足すると、事業が継続できなくなります。本市下水道事業では、安定した事業運営のためには、30～40億円程度の留保資金が必要と考えています。
- これまでは40億円を上回る水準で推移していますが、今後は、物価や金利の上昇などによる経営状況の悪化や、老朽化が進む施設の更新に多額の費用が見込まれることから、留保資金が急激に減少していくことが懸念されます。

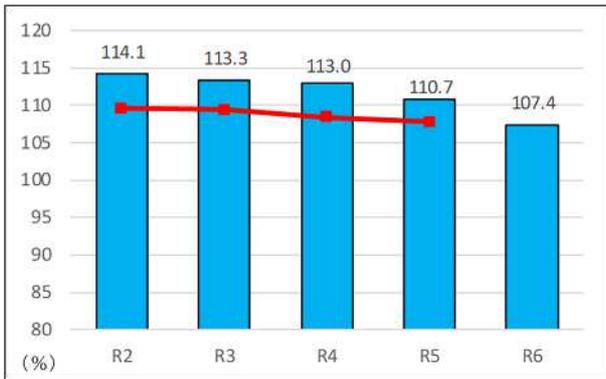
4 経営指標

【凡例】 ■ 福井市 —■— 類似団体平均値

(類似団体区分：処理区域内人口 10 万人以上(政令市除く)、区域内人口密度 50 人/ha 未満)

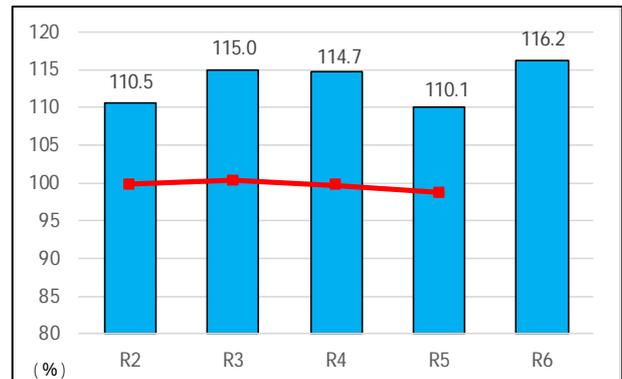
経営の健全性

[経常収支比率]



維持管理費等の経常費用を、使用料収入や繰入金等の収益でどの程度賄えているかを示す指標。
(100%以上が望ましい)

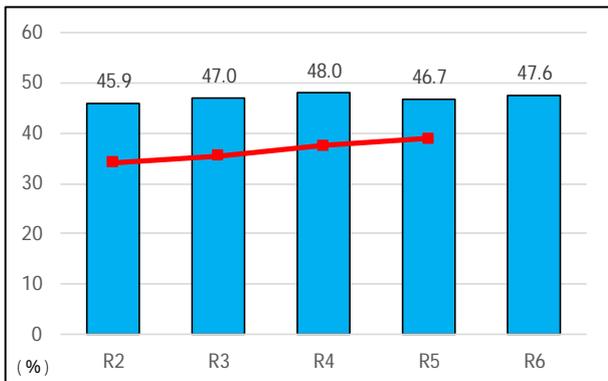
[経費回収率]



使用料で回収すべき汚水処理費を、どの程度使用料で賄えているかを示す指標。(100%以上が望ましい)

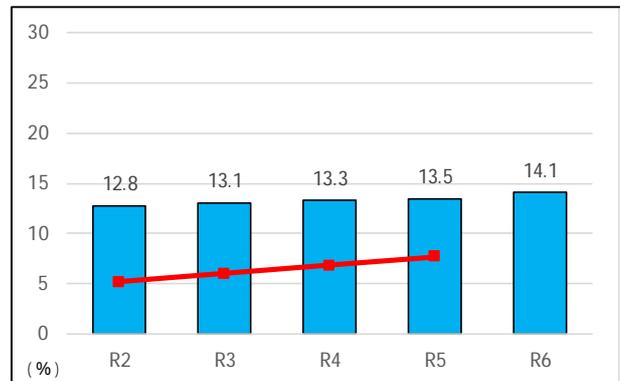
施設の老朽化の状況

[有形固定資産減価償却率]



有形固定資産(償却対象資産のみ)の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標。

[管渠老朽化率]



法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を示す指標。

- 『経常収支比率』は、光熱費や資材等の高騰による維持管理費の増加により、前年度に比べ低下しましたが、健全経営の目安とされる 100%を上回っています。また、『経費回収率』も 100%を上回っています。
- 『有形固定資産減価償却率』及び『管渠老朽化率』はいずれも類似団体平均を上回っており、施設の老朽化が進んでいる状況であることから、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。